2025.2.18
第15回副首都推進本部（大阪府市）会議

資料３

夢洲第2期区域マスタープラン　Ver.1.0（案）

大阪府･大阪市

大阪府・大阪市（以下「府市」という。）では、大阪港に浮かぶ約 390ha の埋立地「夢洲」において、経済界とともに策定した「夢洲まちづくり構想」（平成 29（2017）年 8 月策定）及び「夢洲まちづくり基本方針」（令和元（2019）年 12 月策定）に基づき、都心部にはない海に囲まれた立地条件や広大な土地を最大限に活かした国際観光拠点の形成に向けたまちづくりを進めています。

夢洲第1期区域（以下「第1期区域」という。）においては、令和5（2023）年4月に国の認定を受けた「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づく統合型リゾート（IR）（以下「IR」という。）の整備に向けた取組みが進められており、夢洲第2期区域においては、IRと連携を図りながら、国際観光拠点の形成に向けて取り組むとともに、あわせて、観光外周道路や鉄道（コスモスクエア駅～夢洲駅間）など、夢洲の土地利用に必要なインフラ整備も進めています。

令和7（2025）年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、国家プロジェクトである2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）が開催され、夢洲に国内外から多数の来訪者が見込まれています。

大阪・関西万博跡地となる夢洲第2期区域（以下「第2期区域」という。）においては、開発面積が約 50 haという広大なエリアであるため、第2期区域のまちづくりの方針（マスタープラン）を示すこととし、令和6（2024）年9月から開始した「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、民間事業者からまちづくりについての提案を受付け、これらの提案の中から、令和7（2025）年1月に優秀提案2件を決定したところです。

本マスタープランは、これらの優秀提案の内容などを踏まえ、開発事業者募集の前提条件となるまちづくりの方針として、現段階の考え方を取りまとめたものです。今後、2025年日本国際博覧会協会及び関係者と協議を進め、本マスタープランを更新することを予定しております。

今後、令和7（2025）年度後半には、本マスタープランに沿って開発事業者の募集を開始し、開発事業者を決定することとしており、第2期区域のまちづくりの効果を、臨海部をはじめとした周辺地域に波及させ、大阪の成長・発展を先導する東西軸のニシの一大拠点の形成につながるよう、取り組んでまいります。

夢洲第２期区域マスタープラン策定の背景・役割

夢洲まちづくり構想【2017（平成29年）策定】

・夢洲地区での観光拠点の形成などの新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりの方針や土地利用等について方向性をとりまとめ

夢洲まちづくり基本方針【2018（令和元年）12策定】

・IR整備法の成立や夢洲での万博開催が決定したことを踏まえ、具体的なまちづくりの方針をとりまとめ

↓

【2022】夢洲第2期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

↓

【2024.1】開発事業者募集を2段階とする方針を公表

↓

【2024.９】夢洲第２期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施
【2025.1】２件の優秀提案の決定

優秀提案の内容を参考にマスタープランをとりまとめ

「夢洲第２期区域マスタープラン」の策定

マスタープランに沿ったまちづくりの実現に向け、開発事業者募集の条件を検討

【2025年度後半】夢洲第2期区域　開発事業者募集の開始

目次

夢洲全体

夢洲第2期

1．夢洲のまちづくりの経緯と状況

（1）夢洲のまちづくりの経緯

① 夢洲のまちづくりの経緯

② 夢洲まちづくり構想（平成29年8月　夢洲まちづくり構想検討会）

③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元年12月　夢洲まちづくり基本方針検討会）

（2）夢洲のまちづくりの状況

1）基盤整備

① 夢洲アクセス鉄道　② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）

③　係留施設

2）土地利用

① 夢洲第１期区域　統合型リゾート（ＩＲ）

② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

2．夢洲第２期区域まちづくりの考え方

（1）対象地

（2）コンセプト

（3）まちづくり方針

3．土地利用方針

《土地利用計画（ゾーニング）》

4．都市空間形成方針

（1）まちの骨格の形成

（2）上質なにぎわい空間の形成

（3）水とみどりあふれる空間形成

（4）魅力ある景観の形成

夢洲第2期

5．基盤整備計画

（1）道路ネットワークの形成

《観光外周道路（南側）》

《区域内道路》

（2）歩行者動線ネットワークの形成

《整備の方針》

（3）円滑な地区内移動等手段の確保

《整備の方針》

6．万博レガシーの継承

（1）ソフトレガシー

（2）ハードレガシー

① 大屋根リング

② 静けさの森

③ 大阪ヘルスケアパビリオン

7．まちづくりＤＸ・ＧＸの推進

（1）安全・安心なまちの実現

（2）快適性・利便性の高いサービスの提供

（3）環境技術を活用した持続可能なまちの実現

8．エリアマネジメントの推進

《エリアマネジメントの推進に向けた取組み》

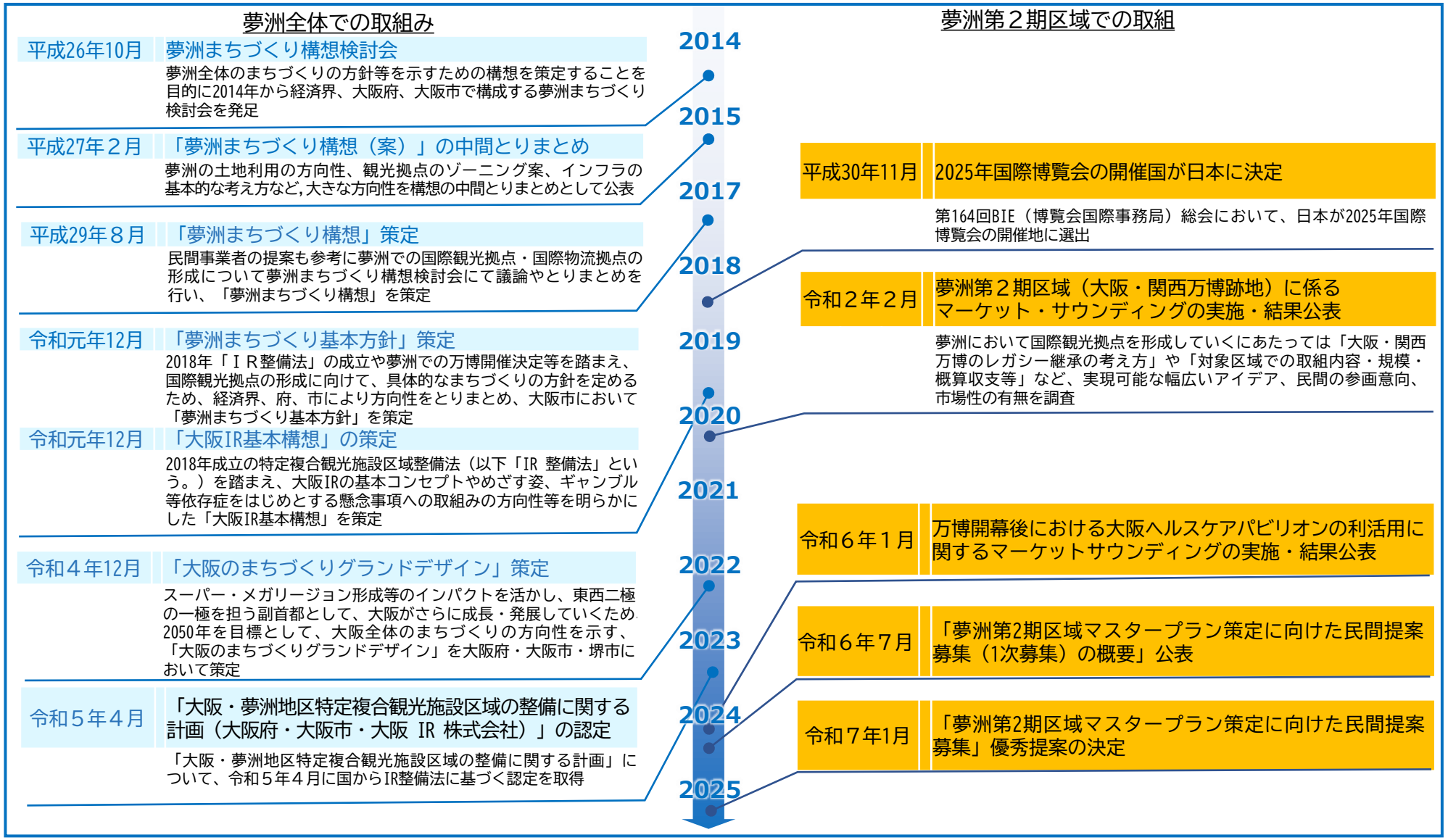
9．今後の進め方

10．参考資料

1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

（1）夢洲のまちづくりの経緯

① 夢洲のまちづくりの経緯



（1）夢洲のまちづくりの経緯

② 夢洲まちづくり構想（平成29年８月）

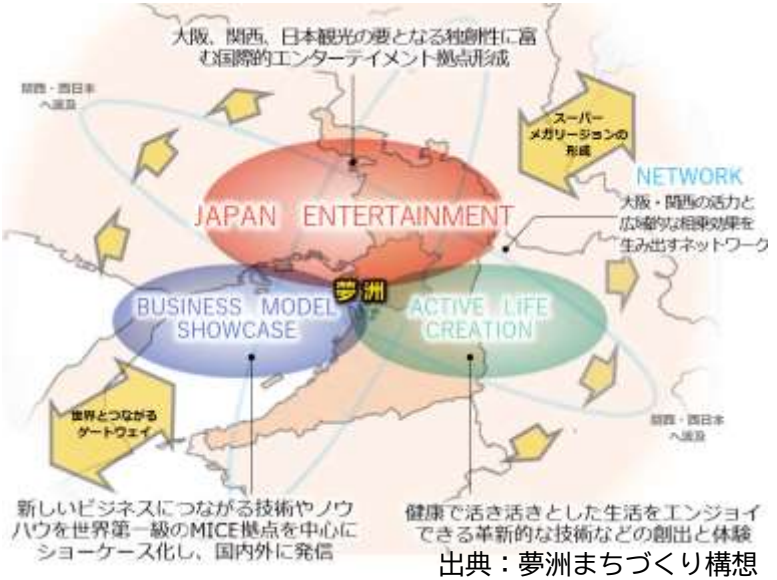
夢洲地区での観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりや土地利用等に関する方針としてとりまとめ

夢洲まちづくり構想

コンセプト

Ｓｍａｒｔ　Ｒｅｓｏｒｔ　Ｃｉｔｙ
夢と創造に出会える未来都市

拠点形成のための都市機能



出典：夢洲まちづくり構想

JAPAN ENTERTAINMENT

大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテイメント拠点形成

BUSINESS MODEL SHOWCASE

新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

ACTIVE LIFE CREATION

健康で活き活きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

まちづくりの方針

土地利用：世界で存在感を発揮する まちづくり

都市基盤：確かな技術に支えられたスマートなまちづくり

環境共生：地球・自然環境共生とスマート技術の融合による先進的で快適な環境形成

空間デザイン：アーティスティックなデザイン、上質で快適な空間構成

（1）夢洲のまちづくりの経緯

③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元年12月）

「ＩＲ整備法」の成立や夢洲での万博開催決定等を踏まえて、国際観光拠点の形成に向けた具体的なまちづくりの方針としてとりまとめ

夢洲まちづくり基本方針

SMART RESORT CITY の方向性

・夢洲では、「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取組みによって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。
・夢洲で万博が開催されることを踏まえ、その意義や理念を活かしたまちづくりをめざす。

土地利用の方針

第１期区域　統合型リゾート（ＩＲ）を中心としたまちづくり

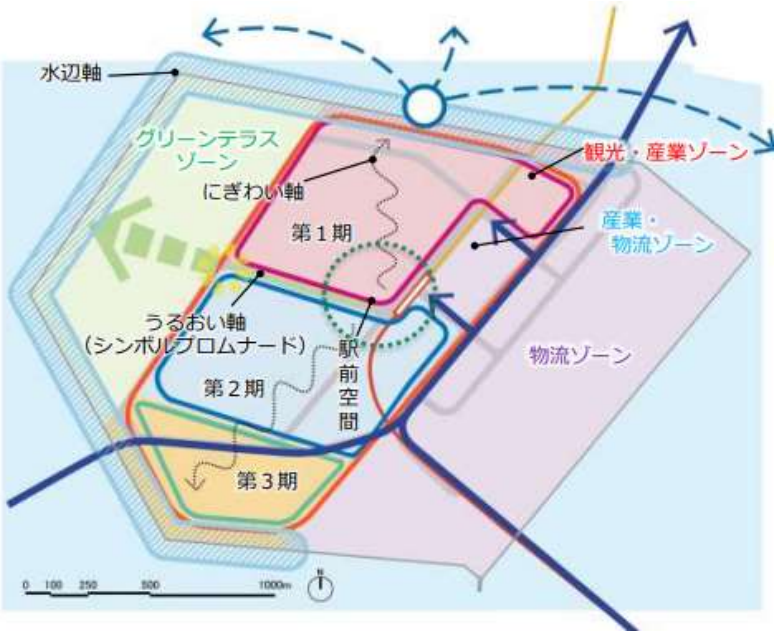
・夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテイメント機能の集積
・関西・日本が育んできた和の文化・芸能等に国内外から の来訪者が触れることができる施設やコンテンツ・サービスを導入
・競争力の高い大規模展示場や会議場などを整備し、都市力向上や産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化

第２期区域　万博の理念を継承したまちづくり

・国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客
・第１期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取組みや、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取組みを展開する
・整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備

第３期区域　第１・２期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり

・海に隣接した立地特性を活かすとともに、第１・２期において導入された来訪者の利便性の向上に資する最先端 技術等を取り入れた施設やサービスにより、生活の質（QOL）を高め、非日常空間を感じ、ゆとりある滞在時間を過ごせる上質なリゾート空間を創出



出典：夢洲まちづくり基本方針

（２）夢洲のまちづくりの状況

【交通アクセス】
- 都心や周辺都市との高速道路ネットワークが整備されており、交通至便性が高い。
- 近畿圏には、関西国際空港、大阪国際空港（伊丹空港）、神戸空港の３つの空港が立地。
- 令和７(2025)年１月にOsaka Metro中央線が夢洲まで延伸し、南側からの地下鉄によるアクセスが可能となった。また、夢洲への北側からの鉄道アクセスについても、関係者及び有識者等が参加する検討会を設置し検討中。

【周辺施設】
- 夢洲周辺の大阪臨海部には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®（以下「ＵＳＪ」という。）が立地。
- 海遊館などの観光資源や、舞洲には野球場・アリーナなどのスポーツ施設が立地。
- 大阪港（天保山客船ターミナル）には、クルーズ客船が発着。中国・韓国と結ぶ国際フェリー、四国・九州と結ぶ国内フェリーの定期運航サービスが就航。
- 夢洲の西側区域は、メガソーラーが立地するなど環境・新エネルギーの拠点として稼働。

【夢洲地区】
- 夢洲の東側には、国際コンテナターミナルが立地しており、大阪・関西の物流機能の中心的役割を担う国際物流拠点を形成。
- 夢洲第１期区域では、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づいた統合型リゾート（ＩＲ）の整備に向けた取組が進められている。
- 夢洲第２期区域などにおいて、令和７(2025)年４月から10月まで「大阪・関西万博」を開催。

（2）夢洲のまちづくりの状況

1） 基盤整備　　① 夢洲アクセス鉄道

- 夢洲への鉄道アクセスは、令和７(2025)年１月に南ルート（Osaka　Metro中央線）が開通し、大阪市内から地下鉄でのアクセスが可能となった。
- 北ルートの整備に向けて、有識者等による「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を設置し、夢洲の段階的な土地利用の状況等を踏まえて検討している。

ⅰ．夢洲アクセス鉄道【北港テクノポート線 南ルート（Osaka Metro中央線延伸）】

- 北港テクノポート線は、大阪港港湾計画等に基づく臨海部の開発に伴う交通需要に対応するために計画された、咲洲、夢洲、舞洲を経由し、在来臨海部及び都心部を結ぶ路線。
- 咲洲～夢洲間が、令和７(2025)年１月に開通。

【Osaka Metro中央線延伸部　概要】
〇延伸区間：総延長7.5km（コスモスクエア～新桜島）の内、
南ルート　3.2km（コスモスクエア駅～夢洲駅）

ⅱ．夢洲アクセス鉄道【北ルート】

- 夢洲への鉄道によるアクセスにかかる整備の方向性について検討を行うため、令和６(2024)年11月から「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を開催。
- 国の答申として位置付けられている、答申路線（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）と、京阪中之島線延伸（中之島～九条）及びＪＲ桜島線延伸（桜島～舞洲～夢洲）について費用対効果などの観点から優位性を比較検討。
- 今後、検討会における検討結果を踏まえつつ、夢洲まちづくりの動向を見極め、鉄道事業者等関係者とともに検討の深度化を図る。

検討対象路線（案）
１）答申路線　（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）
２）検討路線　・ＪＲ桜島線延伸（桜島～舞洲～夢洲）
・京阪中之島線延伸（中之島～九条）

【夢洲駅】
〇夢洲駅構造：地下２階構造（地下１階：コンコース、地下２階：ホーム）
〇コンコースの通路幅：17メートル
〇改札：16基（2025大阪・関西万博開催時）
〇ホーム延長：160メートル　〇ホーム幅：10メートル（最大）

（2）夢洲のまちづくりの状況

1） 基盤整備　② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）

- 夢洲へのアクセスは、舞洲から夢舞大橋、咲洲から夢咲トンネルを経由する２つのルートとなっている。
- 2025年大阪・関西万博に併せて、此花大橋や夢舞大橋の車線数の増加や、夢洲・舞洲において高架橋の整備等を行い、アクセス道路 機能の強化が図られる。

ⅰ．アクセス機能の強化

新たな国際観光拠点の形成に向けて、阪神高速道路湾岸線の舞洲ランプから此花大橋や夢舞大橋の車線数を増加し、道路機能を強化。

＜此花大橋＞

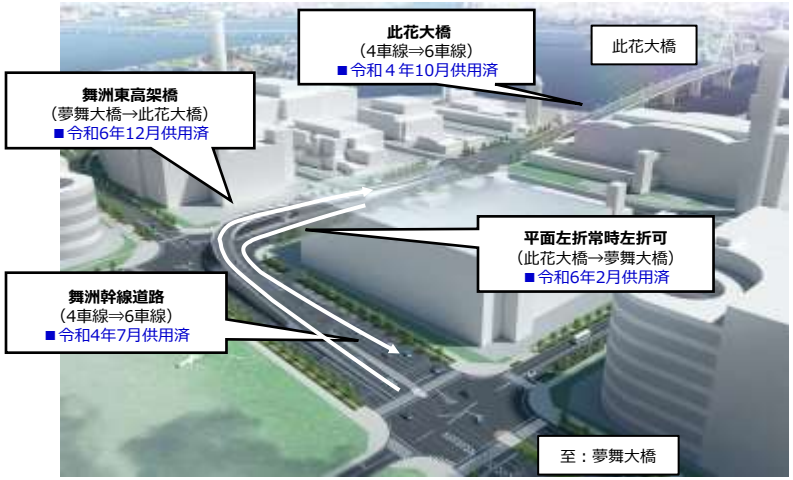
令和４(2022)年に、車線数を４車線から６車線に増加。万博閉幕後は、さらに歩道を設置し、歩行者及び自転車の通行が可能となる。

＜舞洲東交差点高架橋等＞

夢舞大橋から此花大橋に向かう北行きの右折２車線を立体交差化することにより、右折車両の円滑な交通動線を確保するとともに、舞洲幹線道路の車線数を４車線から６車線に増加。

＜夢舞大橋＞

通行の円滑化のため、令和４(2022)年に車線数を４車線から６車線に増加。



ⅱ．物流車両と観光車両の分離

物流車両と観光車両の動線を分離するため、夢洲内（夢洲中央幹線）の２つの交差点部に高架橋を整備している。夢洲に来訪した観光車両は、この高架橋経由で、観光外周道路へアクセス可能。

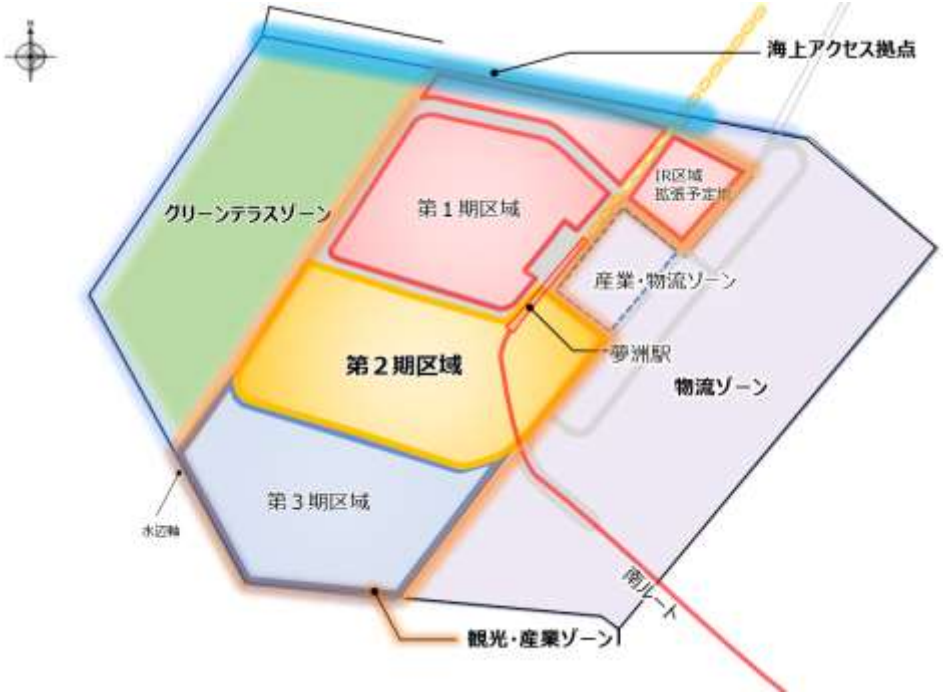
（2）夢洲のまちづくりの状況

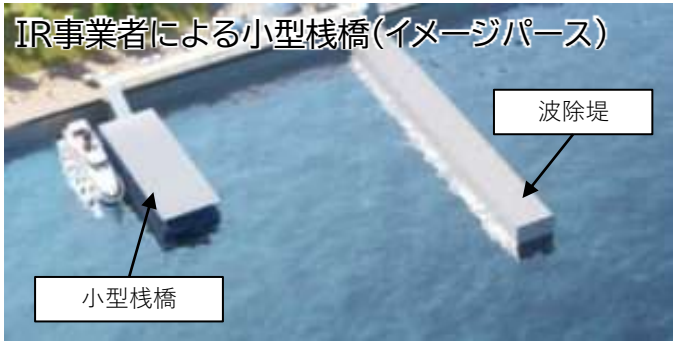
1） 基盤整備　　③ 係留施設

- 周囲を海に囲まれた夢洲という立地特性をふまえ、鉄道・道路に加えて、他のエリアからのアプローチを可能とする海上アクセス拠点を北側水際線に整備し、来訪者の利便性の向上及び集客力の強化を図ることとしている。
- 国際観光拠点の形成に向けて、多様なアクセス手段の確保をめざしており、係留施設を活用した水上交通の活用を検討している。

ⅰ．海上アクセス拠点の強化

- 魅力ある国際観光拠点として、夢洲の立地を活かし、国内外と結ぶクルーズ客船や、近傍の集客施設と結ぶ小型客船などによる、海上アクセスの強化をめざす。
- 水上交通と連携して、大阪全体の水上交通網の拡充を図る。





（2）夢洲のまちづくりの状況

2）土地利用　① 夢洲第１期区域　統合型リゾート（ＩＲ）

大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画（区域整備計画）

- 令和４年(2022)年４月に認定の申請を行った区域整備計画について、特定複合観光施設区域整備法(平成30年法律第80号)第９条第11項の規定に基づき、令和５年(2023)年４月に国土交通大臣より認定
- 日本最大級のオールインワン型のＭＩＣＥ施設(国際会議場施設及び展示等施設)、大阪・関西・日本の魅力を強力に発信する魅力増進施設、バスターミナル及びフェリーターミナルを含む送客施設、総客室数約2,500室を有する宿泊施設、カジノ施設等から成る統合型リゾート

○コンセプト

“結びの水都”
- 大阪・関西を世界とつなぐゲートウェイ
- ここにしかない最高のエンターテイメント
- 未来を創出するイノベーション
- 大阪の発展を象徴する水

○ビジョン

“WOW”　Ｎｅｘｔ
- 特徴的な建築やマスタープラン
- 世界トップクラスのエンターテイメント
- 最高級の宿泊施設
- 日本最大級のＭＩＣＥコンプレックス

○効果

ＩＲ区域への来訪者数	約2,000万人/年
初期投資額	約1兆2,700億円
経済波及効果(運営)※	約1兆1,400億円/年
雇用創出効果(運営)※	約9.3万人/年
雇用者数(ＩＲ施設)	約1.5万人

※近畿圏

○ゾーニングと配置計画

○事業工程
- 2025年春頃　　ＩＲ建設工事の着手
- 2030年秋頃　　ＩＲ施設の開業

※工程が最も早く進捗した場合の想定

（2）夢洲のまちづくりの状況

2）土地利用　　② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

開催概要

○テーマ　いのち輝く未来社会のデザイン
○サブテーマ　Saving Lives（いのちを救う）　Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）
○開催期間　令和７(2025)年４月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）
○事業コンセプト　People’s Living Lab（未来社会の実験場）

提供：２０２５年日本国際博覧会協会

テーマ事業

「いのち輝く未来社会」の姿を立体的に描き出すために、8つのテーマを設定

いのちを知る
生命系全体の中にある私たちのいのちの在り方を確認する。

いのちを育む
宇宙・海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりを感じ、共に守り育てる。

いのちを守る
危機に瀕し、人類は「分断」を経験する。「わたし」の中の「あなた」を認めるいとなみの行方に、多様ないのちが、それぞれに、護られてゆく未来を描く。

いのちをつむぐ
自然と文化、人と人とを紡ぐ「食べる」という行為の価値を考え、日本の食文化の根幹にある「いただきます」という精神を発信する。

いのちを拡げる
新たな科学技術で人や生物の機能や能力を拡張し、いのちを広げる可能性を探求する。

いのちを高める
遊びや学び、スポーツや芸術を通して、生きる喜びや楽しさを感じ、ともにいのちを高めていく共創の場を創出する。

いのちを磨く
自然と人工物、フィジカルとバーチャルの融和により、自然と調和する芸術の形を追求し、新たな未来の輝きを求める。

いのちを響き合わせる
個性あるいのちといのちを響き合わせ、「共鳴するいのち」を共に体験する中で、一人ひとりが輝くことのできる世界の模式図を描く。

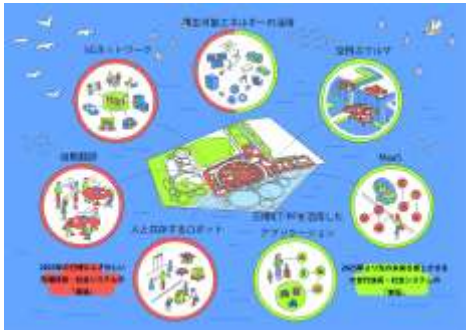
未来社会のショーケース事業

万博会場を未来社会のショーケースに見立て、先端的な技術やシステムを取り入れることで、未来社会の一端を実現することをめざす。
「People’s Living Lab（未来社会の実験場）」というコンセプトに基づき「Society5.0実現型会場」を創造

テーマ1「会場設計」
・チケッティング、MaaS（マース）、自動運転等の各種サービスを連携させる情報通信共通基盤の導入等

テーマ2「環境・エネルギー」
・カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術の ショーケースとしての導入

テーマ3「移動・モビリティ」
・公共交通や会場内のモビリティ、 チケット購入等の検索・予約・決済等や、会場内の情報等アプリにより提供
・空飛ぶクルマによる移動体験



Society5.0実現型会場イメージ
提供：２０２５年日本国際博覧会協会

テーマ4「情報通信・データ」
・高速・大容量、低遅延、多数同時接続の5G等ネットワークの整備を進めるほか、技術の進展に伴う新たな技術要素の導入を目指す。

テーマ5「会場内エンターテイメント」
・リアルとバーチャルの融合を活用した、未来のエンターテイメントの実現を目指す。

（1）対象地

【面積】約５０ヘクタール※
※外周道路の整備面積を含む。

（2）コンセプト

万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて
「未来社会」を実現するまちづくり

（3）まちづくり方針

① エンターテイメントシティの創造

- 第１期区域のエンターテイメント等と連動しながら相乗効果を高めるエンターテイメント機能やレクリエーション機能等多様な機能　、さらにはこれらの新たな創出に向けた産業や人材育成等の機能の導入に加え、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより国際観光拠点を強化
- 夢洲の広大な土地を活かし、豊かな水・みどりと上質なにぎわい等が一体となった魅力あふれる「非日常」を感じる空間を創出するとともに、最先端技術の実装・イノベーションの実現により、来訪者が憩い・安らぎを感じながら時間を過ごし、再び訪れたくなるまちを形成

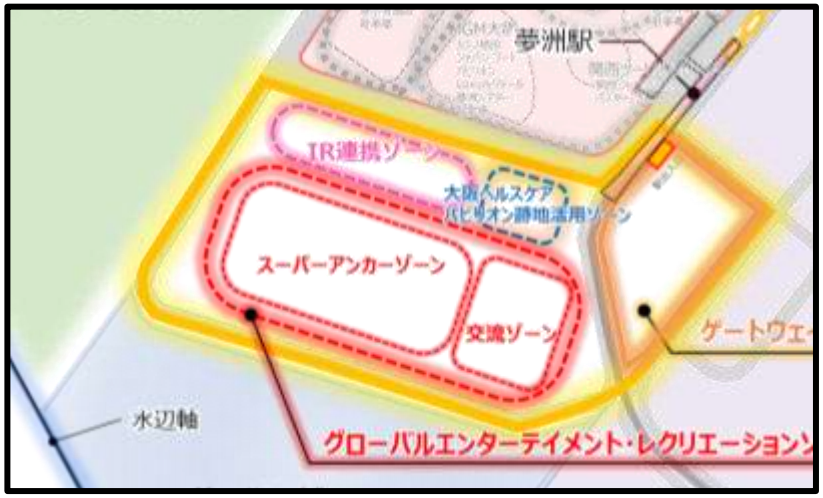
② SDGs未来都市の実現

- カーボンニュートラル、都市の自然生態系の形成等の環境対策により、ＳＤＧｓ未来都市を創造
- 周辺区域と連携しながら、多種多様なプロジェクトを創出するためのプラットフォームの構築や、魅力にあふれ安全安心なまちの実現に向けたエリアマネジメント組織の組成による持続的なまちの価値向上・活性化

③ 最先端技術の実証･実践･実装

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博の理念を継承し、次世代技術の実証や未来社会のショーケースである万博で実施された最先端技術を実践、さらには、実装に向けた取組を実施

【基本的な考え方】
- 広大な土地を活かしたスーパーブロックによる土地利用を実現し、隣接する第１期区域との連携・相乗効果による更なる「非日常」を提供する。
- 夢洲２期区域の一体的なまちづくりのため、ゾーン相互間での機能連携や連続した動線計画を実現する。また、隣接する区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどりや広場・歩行者空間等を配置し、一体性・連続性を確保した土地利用とする。
- 大阪・関西のみならず、国内外のプレミアムマスから日常的な利用客まで幅広い集客力を有する大規模なエンターテイメントやレクリエーション機能等の導入を図るとともに、大阪が強みを有する産業や研究の拠点機能や展示機能、その他国際観光拠点の形成に寄与する機能の導入を図る。
- 夢洲の立地特性を活かしたアメニティ高い空間を創出するため、水・みどりに親しめる空間を適切に配置する。



3. 土地利用方針

《土地利用計画（ゾーニング）》

① ゲートウェイゾーン

- 夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）・期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- 夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミー体験など）が可能な機能等の導入
- 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンに導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- 来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備

（導入施設例：商業・飲食施設、オフィス、宿泊施設、国際的な交流・イノベーション・インキュベーション施設、広場　等）

②グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

②－１ スーパーアンカーゾーン

- 世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- 水・みどりに楽しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- 地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーン、ＩＲ連携ゾーンと連携した機能の導入

（導入施設例：国際的なモータースポーツ拠点（サーキットなど）、アイコニックなラグジュアリーホテル、世界クラスのウォーターパーク、商業・飲食施設　等）

②－２ 交流ゾーン

- ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーアンカーゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- 人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入

（導入施設例：アリーナ、劇場、商業・飲食施設　等）

③ＩＲ連携ゾーン

- 隣接する第１期区域（ＩＲ区域）と連携することにより相乗効果を高める機能の導入

（導入施設例：ホテル、ＭＩＣＥ施設　等）

④　大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

- ヘルスケアパビリオンの取組みを継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- 残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入

（導入施設例：先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る施設、ホテル、オフィス、商業施設、ＭＩＣＥ施設　等）

【基本的な考え方】

- 多様な用途・高質なデザインの建築物や水・みどりあふれる空間、万博のハードレガシーなどが相互に機能的･空間的に連携することで、夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を演出する空間を創出する。
- 建築物や公共空間等の整備は、歩いて楽しめる賑わいのある空間の創出や、区域内移動の回遊性・利便性の向上などに配慮するとともに、万博を契機として取り組まれている新たな技術やサービス等の実証・実践の場としての活用にも配慮する。
- アイコニックな建築物や施設配置などにより街路空間のみならず空・海などからの視点を意識した大阪のランドマークとなるシンボル的な都市景観を形成するとともに、水辺空間を活かした象徴的で魅力ある夜間景観を形成する。
- 隣接する区域の施設にも配慮し、隣接街区と調和のとれた景観や機能を形成する

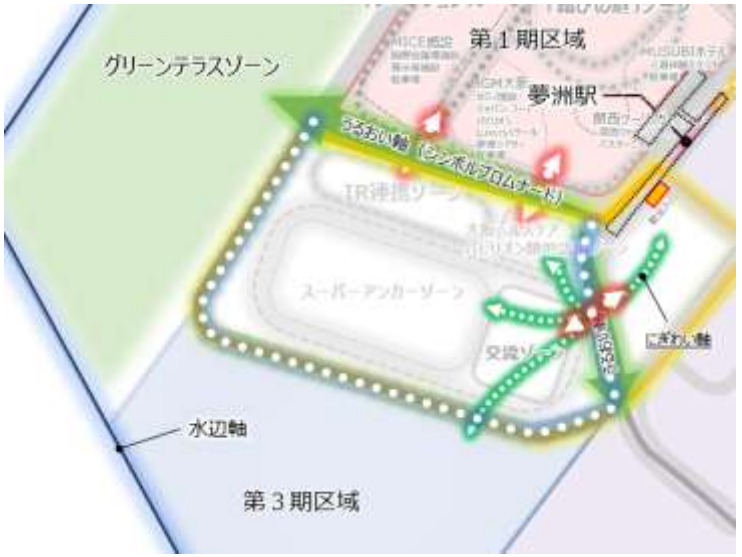
（1）まちの骨格の形成

① うるおい軸

- 駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成。
- 夢洲駅から西の水辺軸（大阪湾）に向けて伸びるシンボルプロムナードには、水・みどりあふれる空間として、第１期区域と統一感のある景観形成に努める。また、沿道建築物の壁面後退や建築敷地内のパブリックスペースの確保などによって連続したオープンスペースを確保するとともに、水・みどりに親しめる空間の整備などにより、歩道部分と一体となった、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の創出を図る。

② にぎわい軸

- 駅前から第２期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第３期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成。
- 「にぎわい軸」に面する建築物の低層部には商業機能等を導入するとともに、イベントスペースとなるたまり空間の配置や低層部のデザインの工夫などにより、水・みどり空間とにぎわいが融合した個性豊かなまちなみを創出し、歩いて楽しい歩行者空間の形成を図る。



うるおい軸・にぎわい軸のイメージ

（２）上質な非日常空間の形成

- 都心部にはない広大な土地を最大限活かしたゆとりのある建築物や道路などの施設配置とともに、豊かな水・みどりを適切に配置した上質な憩い・やすらぎ空間の整備などにより、第１期区域との連携・相乗効果による、夢洲でしか体験できない非日常を演出する都市空間の形成を図る。
- 夢洲駅前には、人のにぎわい交流・憩いの場となる、水・みどりあふれるオープンスペース（広場等）を整備し隣接する建築物等と一体で、駅に降り立った人が、高揚感・期待感を感じる夢洲第２期区域の玄関口にふさわしい空間を創出する。
- 広場や歩行者空間などの公共的空間についても、非日常を演出する場として積極的な利活用を図る。

（３）水とみどりあふれる空間形成

- まちの骨格や建築敷地内のパブリックスペースにおいて、ＳＤＧｓの達成に向けた環境共生（都市の自然生態系の創出など）などに配慮しながら、適切に水・みどりを配置し、うるおい・憩いを享受できる空間の形成を図る。
- 敷地内の歩行者空間は、周辺施設との一体性にも配慮しながら、にぎわいと融合した水・みどり空間の形成を図る。
- 建築物の中低層部の屋上や壁面などにおいても立体的に水・みどりを創出し、地上部の水・みどりと一体となった空間を形成する。

（４）魅力ある景観の形成

- アイコニックで個性豊かなデザインの建築物や空からの視点など様々な視点場からの見え方を意識したランドスケープ等により、第１期区域とともに、大阪の新たな象徴となる都市景観を形成する。
- 歩行者空間については、適切に水・みどりに親しめる空間やポケットパーク等を配置し、建築物等のデザインと周辺のまちなみとの調和が取れた歩いて　　楽しい景観形成を図る。
- 隣接する他の区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどり、広場・歩行者空間等を配置し、一体性を確保した調和の取れたまちなみを形成。
- 水辺空間や建物ファサード等のライトアップなど人々を魅了するフォトジェニックな光景観を創出し、国際観光拠点にふさわしい魅力的な夜間景観を形成する。
- 第１期区域と第２期区域をつなぐ連絡デッキについては、高質なデザインとするとともに、デッキ上などからシンボルプロムナードに沿って、大阪湾を望む眺望については、シンボリックなものとなるよう、シンボルプロムナード沿道のまちなみ形成を図る。

（1）道路ネットワークの形成

【基本的な考え方】

- 夢洲の自動車交通については、安全性の向上及び交通の円滑化を図るため、高架橋の整備等により観光動線と物流動線を分離しており、夢洲第２期区域には、高架橋及び観光外周道路を経由してアクセスする。
- 適切な交通処理を実現し、快適な移動に資するため、外縁部に既設の観光外周道路とつながる道路を整備するとともに、土地利用計画上、必要に応じて区域内に区画道路を整備する。
- 電線・電信類は地中化し、道路空間の安全性及び快適性を確保するとともに、国際観光拠点に相応しい良好な景観を形成する。
- 駐車場は、区域内における自動車交通処理に支障のないよう適正に配置するとともに、その出入口については、安全で快適な歩行者空間の形成を図るため、できる限り集約化する。
- 万博を契機に取組まれた便利でスマートな次世代モビリティシステムの実証・実装のための空間を必要に応じて確保する。

《観光外周道路（南側）》

- 夢洲２期区域の自動車交通需要を適切に処理する車線数を設定する。
- 公共交通の優先化や、次世代モビリティの導入について必要に応じて検討する。
- 歩行者の道路横断は、ペデストリアンデッキなどの整備など立体的な動線分離を図ることにより、歩行者の安全性を確保する。

《区域内道路》

- 土地利用計画上、区画道路の整備が必要な場合においては、観光外周道路（北側及び南側）との接続は安全かつ適切な位置に設定するとともに、区域内の移動の快適性・利便性向上につながる次世代モビリティシステムの導入を見据えた空間を確保する。

（2）歩行者動線ネットワークの形成

【基本的な考え方】

- 夢洲全体の一体性を確保するため、第１期区域から、将来的には第３期区域まで連続した回遊性の高い歩行者動線ネットワークを形成する。
- 水・みどりやオープンスペース等を適切に配置するとともに、パーソナルモビリティの通行も見据えたゆとりある空間を形成することにより、歩行者が四季を通して安全で快適に通行することができる歩行者空間を形成する。
- 敷地内の通路などの歩行者空間は、周辺施設との一体性に配慮しながら、にぎわいと水・みどりが融合した空間を創出し、来訪者が楽しく、快適に回遊できる歩行者動線ネットワークを形成する。

《整備の方針》

- 敷地内の歩行者空間については、適切に水・みどりに親しめる空間を配置するとともに、イベントや憩いの空間となるポケットパークなどもあわせて整備することで、水・みどりとにぎわいが融合した歩いて楽しめる空間を創出する。
- 第１期区域と第２期区域をつなぐシンボルプロムナード上にデッキを整備し、歩いて楽しい歩行者空間の連続を確保するとともに、うるおい軸の景観と調和し、シンボルプロムナードにふさわしいものとなるよう、デザインにも配慮する。
- 歩行者動線ネットワークの結節点などに水・みどりを配置し、憩いやにぎわい創出の場となるよう配慮する。

各主要動線のイメージ

（3）円滑な地区内等移動手段の確保

【基本的な考え方】
- 第２期区域のみならず夢洲全体の回遊性を高め、安全・安心で利便性の高い地区内移動を実現する。
- 来訪者の安全・安心な夢洲内の移動を支える循環型交通モビリティや、来訪者の回遊を促すパーソナルモビリティの導入を検討する。
- “Smart Mobility EXPO（スマートモビリティ万博）※”における未来社会の実験場として、夢洲で提供された最先端技術を活用した次世代　モビリティや便利でスマートな新しい移動サービスなどの実装をめざす。
- 夢洲へのアクセス性の向上に向け、鉄道アクセス等について検討する。

《整備の方針》

- 利便性が高く、安全・安心な移動を可能とする交通システムの導入により、来訪者の回遊を促す
- 導入するモビリティについては、万博の理念を継承し、最先端技術を用いて利用者に新たな移動体験を提供するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた取組に寄与するシステムの導入をめざす。
- 最先端技術を活用した多様なモビリティネットワークの結節点として円滑で快適な乗り換えを可能とする機能を駅前空間に導入する。
- 来訪者の夢洲内の移動利便性の向上や交流促進により国際観光拠点としての機能強化を図るため、第１期区域と連携しながら観光外周道路を巡回するモビリティの導入について検討する。
- 夢洲へのアクセス向上に向け、夢洲への鉄道アクセスについて、「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」での費用対効果などの観点からの優位性の比較検討を実施し、今後、検討結果を踏まえつつ、夢洲まちづくりの動向を見極め、鉄道事業者等関係者とともに検討の深度化を図るとともに、新技術を活用したアクセス手段の導入可能性についても検討する。

― ※Smart Mobility EXPO（スマートモビリティ万博） ―

画像提供：関西電力・OsakaMetro

大阪・関西万博の未来社会ショーケース事業で設定されている6つの領域のひとつであり、カーボンニュートラルが実現された未来社会の姿を描き出すもの。スマートモビリティ万博で実証・実践する次世代技術・先端技術・社会システムは以下のとおり

会場アクセスバス、アクセス船／会場内・外周バス／会場内パーソナルモビリティ／ロボットエクスペリエンス／空飛ぶクルマ　等

6．万博レガシーの継承

【基本的な考え方】
- 大阪・関西万博では、夢洲に世界中の国々から多くの人々が集い、世界の多様な文化・価値観が交流することで、新たなつながり・創造が促進されていく。
- 大阪・関西万博で掲げたテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向け、夢洲第２期区域においては、様々な課題解決をめざし、 次世代技術・サービス・社会システムの実証・実装に向けた大阪・関西万博での取組を継承し、実用化へのチャレンジフィールドの形成ひいては、共創による社会課題の解決に貢献する都市の実現をめざす。

大阪・関西万博　開催の意義

- いのち輝く未来社会へ
- Society5.0実現に向けた実証の機会
- ＳＤＧｓ達成・ＳＤＧｓ＋beyondへの飛躍の機会
- 日本の飛躍の契機に

大阪・関西万博　理念の継承

①いのち輝く未来社会へ
- 大阪・関西万博で示された“いのち輝く未来社会のデザイン”の理念を、跡地のまちづくりにおいても継承し、持続可能なまちの未来像の共創をめざす

②ＳＤＧｓ達成・ＳＤＧｓ＋beyondへの飛躍の機会
- 大阪・関西万博でＳＤＧs達成に向けた取組みを継承し、2030年やさらにその先を見据えた持続可能な開発を行い、万博開催都市として、都市格の向上をめざす

③Society5.0実現に向けた実証の機会
- 様々な課題解決をめざした大阪・関西万博での取組を継承し、大阪・関西万博終了後においても、引き続き行うまちづくりの中で、新たな技術やサービスが実証・実装された社会の実現をめざす

④日本の飛躍の契機に
- 万博跡地という強みを最大限に発揮し、認知度の向上・地域経済の活性化をめざし、世界中から人・モノ・投資を呼び込むことができる国際観光拠点の形成をめざす

（1）ソフトレガシー

【基本的な考え方】
- 大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケース機能の導入や、最先端技術の実践・実証の取組み、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用したプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築などの、万博理念を継承する取組みを展開する。
- 「大阪スーパーシティ全体計画」における「夢洲コンストラクション」等のプロジェクトで実現した最先端技術やサービス等を、夢洲第２期区域の開発において展開する。

① 取組例

ⅰ．健康医療
- PHRデータの活用による健康プログラムの提案
- 体組成／健康状態自動測定

ⅱ．モビリティ
- 空飛ぶクルマの商用運航の実現可能性及び空飛ぶクルマの離着陸場の整備の検討
- 自動運転バス等の導入とともにモビリティ専用レーンの検討
- PRTシステムの導入
- MaaSの導入（交通、観光、宿泊など、より利便性の高いサービスの導入に向けた検討）
- EV・FCバスの導入やバス対応の充電設備、水素ステーションの整備といったゼロエミッションモビリティの推進

ⅲ．環境
- 太陽光発電、蓄電池、帯水層蓄熱、e-メタン活用等の再生可能エネルギーの利用
- 雨水・中水利用
- 自立分散型電源、バイオガス発電

ⅳ．スマートシティ
- ホテル客室入退室やモビリティ予約者認証等の生体認証技術の導入
- デジタルツインの構築と広域データを活用した、交通流の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。

ⅴ．夢洲コンストラクションの継承
- 建設工事現場内外の移動円滑化（データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導　等）
- 建設工事・資材運搬円滑化（データ及びセンシングによる局所的な気象予測）
- 建設作業員の安全・健康管理円滑化（バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理）

6．万博レガシーの継承

（2）ハードレガシー

① 大屋根リング

○ 進め方

- 大屋根リングは「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す会場のシンボルとなる建築物である。＊
- 2024年９月より実施した「夢洲第２期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、2025年１月に決定した優秀提案では、大屋根リングの一部を残置改修してモニュメントとして活用する提案、大屋根リングを解体し、その部材をリユースし、ベンチやパーゴラなど来街者が触れられる箇所に使用する提案があった。
- 今後、提案内容をベースに、大屋根リングの所有者である博覧会協会及び関係者と協議を進めていく。　　＊博覧会協会ＨＰより

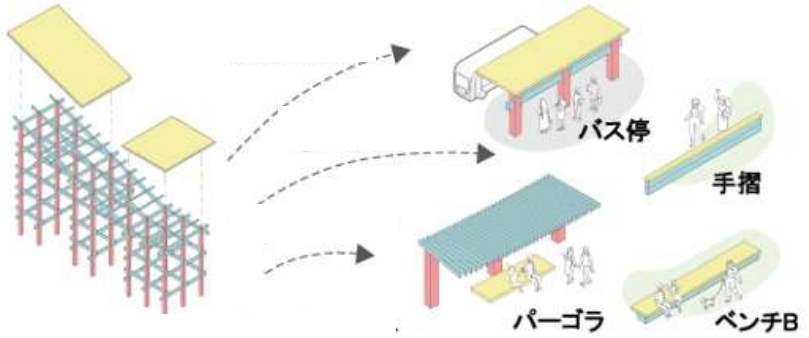
【優秀提案１】一部を残置（改修）しモニュメントとして活用

（位置）

提案内容等を参考に概ねの位置を記載

【優秀提案２】部材としてリユース

（イメージ）



提案内容等を参考にイメージを記載

【大屋根リングの概要】

- 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築
- 会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用

・建築面積　約60,000㎡（水平投影面積）
・内径　　約615m
・外径　　約675m
・幅　　30m
・高さ　　12m（外側20m）

提供：２０２５年日本国際博覧会協会

（2）ハードレガシー

② 静けさの森

○ 進め方

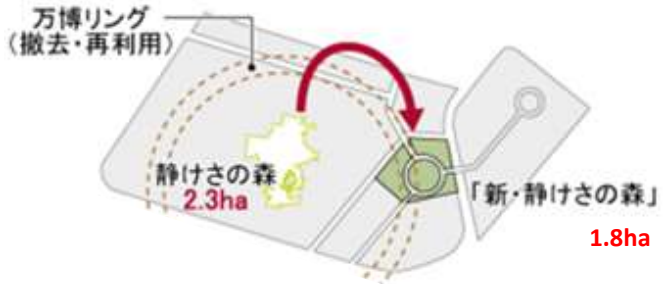
- 「静けさの森」は、樹木や草花などの「いのち」を迎え入れ、万博のテーマを体現する空間である＊
- 2024年９月より実施した「夢洲第２期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、2025年１月に決定した優秀提案では、概ね区域を変更せず樹木を再配置する提案、区域を夢洲駅南側に移設し樹木を再配置する提案があった。
- 今後、提案内容をベースに、静けさの森の所有者である博覧会協会及び関係者と協議を進めていく。

＊博覧会協会HPより

【優秀提案１】概ね区域を変更せず樹木を再配置

提案内容等を参考に記載

【優秀提案２】区域を移転し、樹木を移設



提案内容等を参考に記載

【静けさの森の概要】

・会場の喧騒の中にあってひときわ静かで落ち着ける場所として整備
・万博記念公園をはじめ大阪府内の公園等から将来間伐予定の樹木を移植するなどし、森を構成
  - ・広さ　約2.3ha
  - ・樹木本数　約1,500本
  - ・水景施設　池、水盤
  - ・樹種　アラカシ、イロハモミジ、エゴノキ、クヌギ、コナラ、ヤブツバキなど

提供：２０２５年日本国際博覧会協会

（2）ハードレガシー

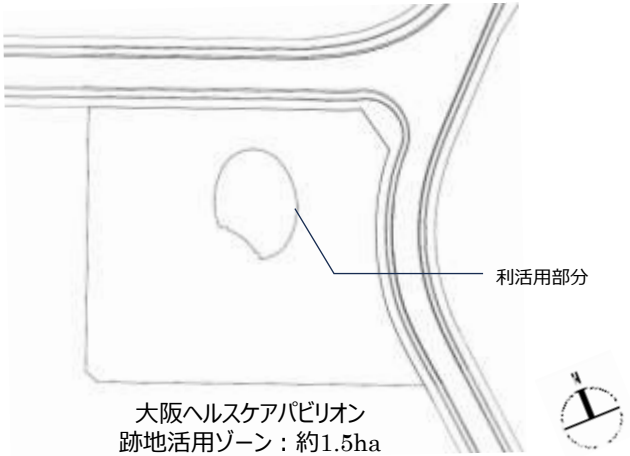
③ 大阪ヘルスケアパビリオン

○ 進め方

- 2025年大阪・関西万博において、大阪府・大阪市では、地元自治体として世界に貢献する大阪の姿を示し、また、大阪のパワーを世界に発信することをめざし、産・学・ 官・民オール大阪の力を結集した大阪ヘルスケアパビリオンを出展する。
- 出展のテーマは、「REBORN」であり、“「人」は生まれ変わる”、“新たな一歩を踏み出す”という意味を込めている。
- 「2050年のミライの都市生活」をストーリーとする展示体験を提供し、「いのち」や「健康」観点から、未来社会の新たな価値を創造するとともに、大阪の活力、魅力を世界の人々に伝える。
- こうしたヘルスケアパビリオンの取組みを、ハード・ソフト両面でレガシーとして後世に継承することとする。
- 建物の一部を残置または敷地内で移築※し、民間事業者所有のもと、ヘルスケアパビリオンにおいて大阪の強みを活かして展開する「先端医療」・「国際医療」・「ライフサイエンス」に係る事業を実施する。
- 建物の耐用年数を踏まえた土地の貸付により、レガシーとしての継続性を確保する。
- また、にぎわい創出の観点から、同施設と連携させながら一体的に運営するホテル、オフィス、商業施設などの施設を隣接して設ける。
- 建物の所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオンと連携し、事業者募集を実施する。

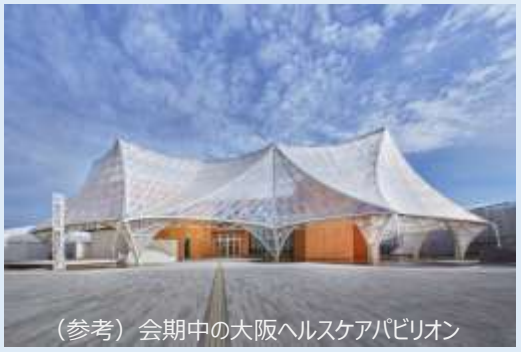
※ 既存建物を解体し、敷地内で復元すること

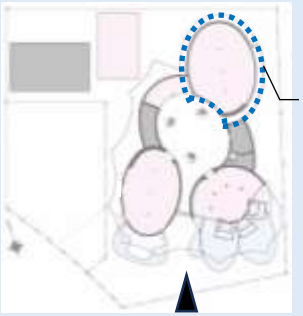
【利活用部分の配置イメージ】



【利活用部分の概要】

・鉄骨造2階建
・延べ面積 約2,000㎡(ヘルスケアパビリオンの一部)


（参考）会期中の大阪ヘルスケアパビリオン



【基本的な考え方】
- IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、安全・安心なまちの実現や都市機能の効率化、最適化をめざすとともに、環境技術の活用やグリーンインフラの整備等により、持続可能な社会の実現をけん引するまちづくりを推進する。

（1） 安全・安心なまちの実現

- 災害時や危機事象発生時においても、速やかな災害対応による被害の軽減と迅速な復旧活動による経済活動の早期回復をめざし、デジタル技術やデータの活用、自立分散型電源の設置等により、災害レジリエンスの向上に努める。
- 第１期区域の開発事業者や行政等との連携・連絡体制を構築し、すべての来訪者及び夢洲で働く従業員の安全・安心の確保に取組む。

（2） 快適性・利便性の高いサービスの提供

- 「大阪スマートシティ戦略」の推進や「大阪スーパーシティ全体計画」の実現に向け、万博で活用した先端的技術、サービスの展開・高度化に取組む。
- 開発自由度の高いグリーンフィールドという特性を活かし、回遊性に配慮した施設配置とするとともに、各種センサー類の設置等による地区内で得られる各種データの蓄積・活用を行い、最先端技術の提供などによる交通円滑化に資するサービス活用を推進する。
- デジタルツインの構築と広域データの活用などによる、交通流動の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。

（3） 環境技術を活用した持続可能なまちの実現

- 温室効果ガスの排出削減等によるカーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向け、万博会場における新技術の実証・活用の取組みを継承し、実装につなげる。
- 環境問題を含む社会問題の解決を都市力・企業価値の向上につなげるとともに、持続可能な社会の実現に向け、グリーンインフラに関する取組を推進する。
（グリーンインフラの具体的導入例：緑地・緑道・水辺空間等の一体整備、コミュニティ広場整備、屋上緑化、雨水貯留機能を有する建築計画など）

8. エリアマネジメントの推進

【基本的な考え方】
- 夢洲第２期区域において、開発事業者が主体となり、「まちの活性化」、「賑わい創出」、「安全安心」などの取組みにより、まちを「育てる」仕組みを構築し、魅力的かつ統一感のあるまちづくりを継続的に推進する。

《エリアマネジメントの推進に向けた取組み》

- 夢洲第２期区域において、長期にわたってエリア全体の価値や魅力向上に取り組み。まちを一体的に管理運営する組織（エリアマネジメント団体）を開発事業者が主体で組成する。
- エリアマネジメント団体においては、「まちの活性化」「にぎわい創出」「安全・安心」の取組みを展開するとともに、スマートシティに関する取組みを支えるデジタル技術の導入、万博レガシーを継承する実証・実装の先進的取組みなどを推進する。
- 第１期区域や、第３期区域（将来）の事業者と連携しながら、夢洲全体のエリアマネジメントに取組む。

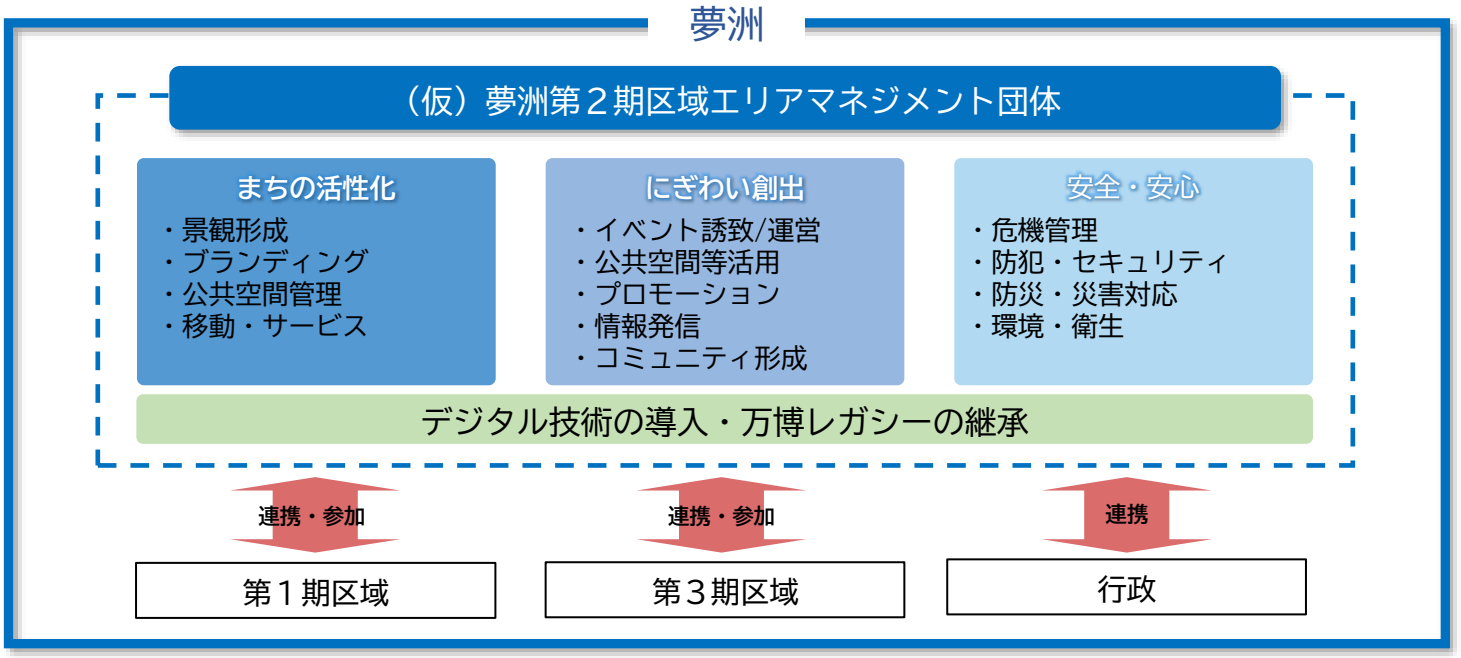


図　夢洲におけるエリアマネジメント組成のイメージ

2024年度

2025年２月18日　副首都推進本部会議

夢洲第２期区域マスタープラン Ver.1.0（案）の確定

2025年２月下旬頃 ～　パブリックコメントの実施（約１か月）

パブリックコメントによる意見を反映

2025年３月末～４月頃　夢洲第２期区域マスタープランVer.1.0の策定

万博協会及び関係者と協議

2025年度

2025年夏頃　夢洲第２期区域マスタープランVer.2.0の策定

2025年度後半　開発事業者募集の開始（２次募集）※

※大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンについては
先行して開発事業者を募集予定

参考資料

参考１

① 大阪のまちづくりグランドデザイン

『大阪のまちづくりグランドデザイン』において、夢洲・咲洲エリアのまちづくりは、『世界で存在感を発揮する拠点エリア』のとして位置付けられ、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市　令和４(2022)年12月策定）

戦略１）成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

１）世界で存在感を発揮する拠点エリア

広域的な鉄道や高速道路などの都市基盤が充実し、高次都市機能が集積している大阪の「都心部」や、空港、港湾などから世界・アジアとつながる「ベイエリア」において、国際的な業務や観光、交流機能等を備えた、国内外から多様な人々を呼び込む、世界で存在感を発揮する国際競争力を備えた拠点エリアを形成

夢洲・咲洲エリア

・2025年に開催される大阪・関西万博のインパクトを活かした、夢洲での国際観光拠点の形成や、研究開発施設が集積する咲洲、スポーツ・レクリエーション施設を有する舞洲をはじめ、天保山・築港、此花西部、鶴浜などとの連携強化により臨海部全体の魅力向上を図るとともに、都心部との鉄道や道路、舟運などの多彩なアクセスを実現することにより、都心部と臨海部が両輪となって大阪の成長をけん引する国際観光・国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざします。

○ 国際観光拠点の形成
○ 大阪港における国際コンテナ戦略港湾としての機能強化
○ 人・モノ・情報の交流拠点の形成
○ スマートなまちづくり
○ 交通アクセスの強化・利便性の向上による周辺臨海部・都心部との連携強化

夢洲・咲洲エリア

世界で存在感を発揮する拠点エリア

出典：大阪のまちづくりグランドデザイン

参考２

② 大阪都市魅力創造戦略2025

- 「魅力共創都市・大阪 ～新たな時代を切り拓き、さらに前へ～」をめざす姿として、３つの基本的な考え方のもと、10のめざすべき都市像を定め各種施策を推進する。夢洲においては、10のめざすべき都市像のうち、「大阪ならではの賑わいを創出する都市」として、「世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信」を図ることとしている。

大阪都市魅力創造戦略2025 （大阪府・大阪市 令和３(2021)年３月策定 令和５(2023)年、６(2024)年一部改訂）

重点取組みの１つとして「世界第一級の文化・観光拠点の進化・発信」に取り組む。

＜大阪ならではの賑わいを創出する都市＞

世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信

・IRを契機とした夢洲における国際観光拠点の形成

出典：大阪都市魅力創造戦略２０２５

③ 大阪市未来都市創生総合戦略（令和６年度～令和10年度）

- 「大阪市未来都市創生総合戦略」では、基本目標のひとつとして「魅力と活力あふれる大阪をつくる」を位置付けており、その主な事業として、「新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組」を行うこととしている。

大阪市未来都市創生総合戦略（令和６年度～令和10年度）【令和６(2024)年３月策定】

＜基本目標＞

①未来を担う人材を育成するとともに誰もが活躍できる社会をつくる
②健康で安心して暮らし続けられる地域をつくる
③魅力と活力あふれる大阪をつくる ⟶
④DXの推進を通じてそれぞれの幸せを実感できる都市への成長・発展につなげる

〈基本目標の達成に向けた施策の柱建て〉

◆大阪経済の活性化
・2025年大阪・関西万博を契機として、大阪、関西の経済活性化を図るとともに大阪の都市魅力を全世界に発信する

＜アクションプラン＞

基本目標③ 魅力と活力あふれる大阪をつくる
具体的な施策：交流人口・関連マーケットの拡大によるビジネスチャンスの創出
主な事業 ： ・大阪夢洲でのIR実現 ・新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組

参考３

④ 大阪のスーパーシティ構想

スーパーシティ型国家戦略特区（令和４(2022)年４月）

- スーパーシティは、住民が参画し、住民目線での、未来社会の先行実現をめざすもの
- 国において大胆な規制改革と併せ、データ連携基盤を活用して複数分野の先端的サービスを提供する「スーパーシティ型国家戦略特区」を設け、令和４年４月に大阪府大阪市と茨城県つくば市が指定（全国で２か所のみ）

大阪スーパーシティ全体計画（令和４(2022)年12月）

「データで拡げる“健康といのち”」をテーマとして、２つのグリーンフィールドで３つのプロジェクトを展開

○２つのグリーンフィールド

・夢洲
・うめきた２期

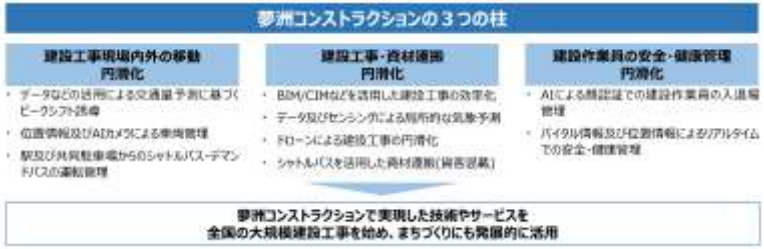
出典：大阪スーパーシティ全体計画

○夢洲での２つのプロジェクト

2023年度～
　夢洲コンストラクション：３つの円滑化を推進
　「建設工事現場内外の移動、建設工事及び資材運搬、建設作業員の安全・健康管理」
2025年度
　大阪・関西万博
　　テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
　　「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」

○夢洲コンストラクション

- 夢洲では、2025年大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備などの建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取り組む。
- i-Constructionの取組をデータ（BIM/CIM含む）とデータ連携基盤の活用により一層発展させる。
- グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による建設工事の安全かつ円滑な実施を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、将来のまちづくりに活かしていく。



出典：大阪スーパーシティ全体計画

○2025年大阪・関西万博

４つの特徴的な先端的サービス、多様な取組

出典：大阪スーパーシティ全体計画

参考４

⑤ 夢洲第２期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査・民間提案募集

・2025年大阪・関西万博開催の跡地となる夢洲第２期区域について、万博後速やかに活用できるよう、民間事業者の皆さまから広くご意見・ご提案をいただく、サウンディング型市場調査（マーケット・サウンディング）を実施

・下記のとおり、提案が11件あり、ホテル・商業・屋内屋外のエンターテイメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった

夢洲第2期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査（令和４(2022)年12月～令和５(2023)年７月）

〇マーケット・リサーチ結果

提　　案	11団体、11件の提案
提案団体	建設会社、不動産会社など
提案概要	〇開発スケジュール ２期全体のまちづくり計画を策定した上、国際観光拠点のまちづくりを段階的な事業に進めていきたいとの提案があった 〇提案施設の用途 ホテル・商業・屋内外のエンターティメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった 〇基盤整備 観光外周道路の形状に関して、地下鉄の線路上部への整備やまちづくりにあわせた独自形状の整備の提案があった 〇関連事項 ・まちの骨格となるオープンスペースの整備 ・モビリティサービスの中核機能の整備 ・まちの移動手段として、域内周回バス、マイクロモビリティ、ゴンドラ ・スマートなまちづくりを担うエリアマネージメント組織

参考５

⑥ 万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング

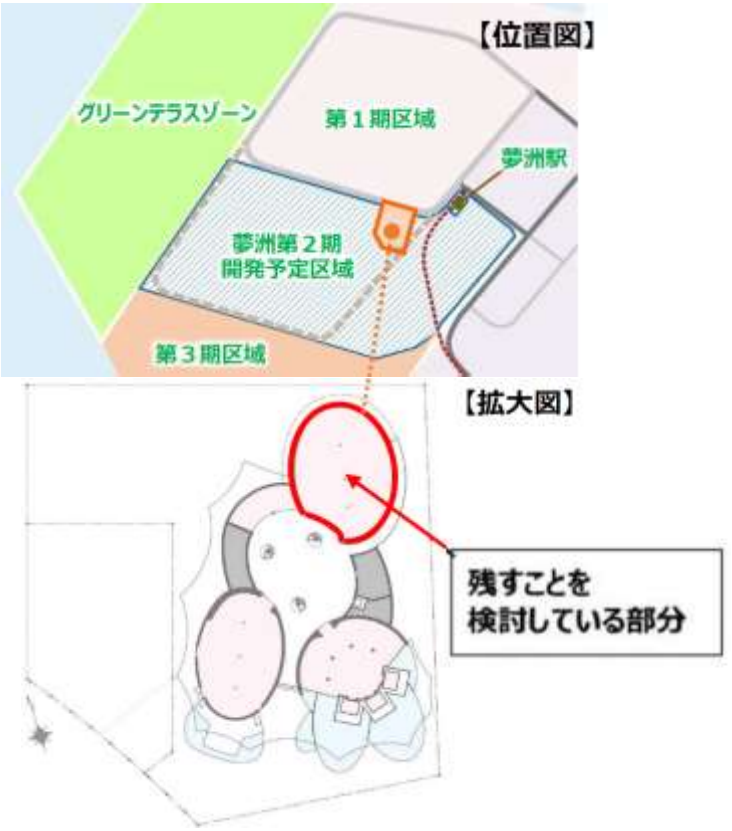
・大阪ヘルスケアパビリオンについては、令和４(2022)年３月に策定した「日本国際博覧会大阪パビリオン出展基本計画」において、建物の一部を残すこととしている。

・2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会では、万博閉幕後の建物を利活用する事業内容や事業条件を募り、最新の市場性を確認することを目的にマーケットサウンディングを実施した。

万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング　（令和６(2024)年１月～４月）

〇マーケット・リサーチ結果

ヒアリング参加者	２者（開発事業者等）
提案概要	〇活用する部分 ・大阪ヘルスケアパビリオンの「残すことを検討している部分」を建物として残置 〇活用の用途 ・最先端医療技術の情報発信を行う施設 ・外国人観光客向けに予防医療を行う施設 〇その他 ・提案の実現にあたっては、収益施設を隣接して設け、一体的に運営することにより、事業性を確保する必要があるとの意見あり ・周辺の道路計画等を踏まえた敷地の設定及び歩行者動線や眺望の確保など、夢洲第２期区域のまちづくりへの要望もあり



参考６

⑦ 道路ネットワーク（広域道路ネットワーク）

- 近畿圏は高速道路ネットワークの整備が進んでおり、車（自家用車・バス等）による近隣府県市から大阪（夢洲）へのアクセス至便性が高い。
- 既存の高速道路ネットワークに加えて、淀川左岸線（２期）・淀川左岸線延伸部や大阪湾岸道路西伸部、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）が現在事業中であり、今後さらなる広域的なネットワーク機能の向上が見込まれる。

ⅰ．高速道路ネットワーク

- 夢洲へは、阪神高速湾岸線、天保山IC又は南港北ICから10分程度でアクセス可能であり、高速道路からの利便性が高い。
- また、空港（関西国際空港など）など広域交通結節点と近接して高速道路ネットワークが構築されている。

ⅱ．広域ネットワークの形成

・既存の高速道路ネットワークに加えて、現在、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）、淀川左岸線（２期）、淀川左岸線延伸部、名神湾岸連絡線、大阪湾岸道路西伸部等が事業化され、これらの整備が完了することにより、大阪の広域的なネットワーク機能が向上する。

・特に大阪都市再生環状道路として位置づけられている淀川左岸線（２期）及び淀川左岸線延伸部が完了することで臨海部と内陸部の連携強化により夢洲へのアクセス性のさらなる向上が期待される。

参考７

⑧　夢洲第2期区域マスタープラン検討会について

ⅰ．検討の目的等

《　検討会の目的　》

夢洲第２期区域のまちづくりの方針となる「夢洲第２期区域マスタープラン」（以下「マスタープラン」という。）を府市が策定するにあたり、外部有識者の意見を聴取するため、「夢洲第２期区域マスタープラン検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

《　意見を聴取する事項　》

（1）マスタープラン策定にかかる検討に関する事項

（2）その他、検討会の目的達成のために必要な事項

ⅱ．開催概要

〇第１回マスタープラン検討会（令和６年１２月２３日）

「夢洲第２期区域マスタープラン素案」の策定方針　など

〇第２回マスタープラン検討会（令和７年１月２２日）

「夢洲第２期区域マスタープラン素案」について　など